



☆会長あいさつ☆

新型コロナウイルスが世界的に感染拡大という報道とともに、予防対策の為に神戸市立学校園が臨時休業となり、保護者の皆さまも子どもたちも不安だったと思います。

そんな中で、今年度を振り返りますと、体育会・文化祭をはじめ、様々な学校行事やPTA活動を通して生徒たちの成長を間近に感じることができました。私自身もたくさんの経験をさせていただき、充実した1年、あっという間の1年でした。

保護者の皆さまにおかれましても、ひとり一役運動やさまざまな行事でご協力いただき、本当にありがとうございました。来年度も引き続き、PTA活動にご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

☆校長先生のお話☆

例年になく暖冬で、今年はすんなりと暖かい春が迎えられそうだと喜んでいたら矢先の新型コロナウイルスの感染報道。今後どのようにしていくのか想像もできない状況の中、卒業式、公立一般入試を迎えなければならないことを憂慮せずにはいられません。このPTA便りが保護者の方のお手元に届くのは、卒業式の前日の予定。何とか無事、卒業式、入試が迎えられていることを願うばかりです。

最後になりましたが、PTA運営委員の方々をはじめ、ひとり一役等でPTA活動にご協力いただいた保護者の皆様方、1年間本校のPTA活動にご支援を賜り、誠にありがとうございました。次年度も引き続きご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

☆4月の行事予定☆



- 4/ 8(水) 離任式・始業式
- 4/ 9(木) 着任式・入学式
- 4/10(金) 2、3年課題実力テスト
- 4/16(木) 全国・神戸市学力調査
- 4/21(火)～24(金) 家庭訪問

☆各学年の様子☆

【1年生】 2月21日(金)に福祉教育授業を行いました。神戸市老人福祉施設連盟の方に来ていただき、チャレンジ学習『80歳の世界を知ろう!』を行いました。内容は下肢障がい、指・手首障がい、視力障がい(盲目)、歩行障がい(車いす)、聴覚障がい、視力障がい(視野狭窄)のうち3つの疑似体験をしました。高齢者について考えるよい機会となりました。1年間ありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。

【2年生】 2月は、実力考査と学年末考査の2回のテストに取り組みました。進路学習と並行して自分と向き合う時間になったかと思います。3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校に伴い、学年行事が軒並み中止となりました。残り少ない3学期ですが、よい締めくくりができるよう期待しています。

【3年生】 39回生もいよいよ卒業となりました。この3年間ずいぶん成長したと思います。これからの素晴らしい未来に向かって旅立っていけるよう職員一同応援し続けたいと思います。この3年間、保護者の皆様や地域の皆様にご迷惑をおかけしましたが、いつも温かく見守り、支えていただいたことを心から感謝しています。これからも39回生が活躍していけるよう見守り続けていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

学年委員会

1年間、花一輪キャンペーンにたくさんのご協力をいただきましてありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

3年生より・・・卒業記念品として、パイプ椅子を贈ります。

愛護部委員会

1年間、あいさつ運動、各種会合の出席等、多くのご協力をありがとうございました。

来年度も引き続き、よろしくお願いいたします。

文化部委員会

1年間、文化部の活動にご協力いただきありがとうございました。カーテンクリーニング、リユース、豚汁作りがたくさんの方にご参加いただきありがとうございました。PTA会員の皆様に心より感謝申し上げます。

来年度も文化部の活動へのご理解ご協力よろしくお願いいたします。

4/8(水) 8:20～体育館横にてリユース受付しております。

専門部・学年より

《 PTA活動 今後の予定 》

- 4月 9日(木) 入学式後、新1年生、各クラス学年委員候補者21名を決定。
(くじを引いてもらい3年間分を決めます。欠席の場合は代理が引きます。)
- 18日(土) 10:00～ 学年委員決定**
候補者21名の中から委員長5名を決定します。欠席の場合は委任状が必要
(委任状を出された場合でも委員に選ばれることがあります。)
- 18日(土) 11:00～ 学年委員総会**
各部門の年間行事を決めます。欠席する場合は委任状が必要です。
- 5月 1日(金) 午後 PTA総会 (体育館)

1年間、PTA活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。運営委員一同、心から感謝しております。特に、ひとり役運動では多くの方に積極的に参加していただき、様々な活動において子どもたちのサポートをすることができたと思います。

これからもより多くの保護者の方、先生方と一緒に、子どもたちを温かく見守る活動ができればと願っています。来年度もご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。



次回運営委員会 4月9日(木) 17:00～

校長の独り言

「故・野村監督」

校長 堀口和則

今の中学生に「巨人大鵬卵焼き」と言っても何のことやら意味が分かる人は少ないと思いますが、私はまさしくそのことばが流行語としてもはやされた時代に生まれた昭和の人間です。ですから、幼い頃は当然熱烈なジャイアンツファンで、王選手のホームラン見たさに、毎日毎日テレビにかじりついていました。周りには阪神ファンも多くいましたが、地元だからという理由だけで、弱い阪神を応援する気持ちにはなかなかたどり着けませんでした。そんな私が突然阪神ファンに変わったのは、尊敬する野村監督の阪神監督就任がきっかけでした。仕事柄、卓越した指導力を持つ個性的な指導者に強い憧れの気持ちがあった私にとって、野村監督は紛れもなくナンバーワンの指導者でした。渡り歩いた球団をいくつも優勝に導き、通用しなくなった選手を何人も再生させたその手腕は、日本のプロ野球史上ナンバーワンの指導者と言っても過言ではないと思っています。中でも表情ひとつ変えずベンチで冷静沈着に戦況を見つめる表情が大好きでした。少々のことでは一喜一憂せず、采配が的中すればニヤリとだけ笑うクールな野村監督の一举手一投足が、私にはこの上なく格好よく映りました。

野村監督のすごさは、監督としてだけでなく解説者としても特筆されるべきものでした。結果論でものを言う解説者や精神論だけで片付けてしまう解説者が多い中で、1球1球のコースと球種を予測し、結果を見事に当てる野村スコープを使っての解説は、野球というスポーツの奥深さ、面白さを感じさせるとともに、新たな野球の楽しみ方を教えてくれたような気がしました。優勝請負人と呼ばれるにふさわしい方の解説であったように思います。

今回の訃報に際しても、信じられない程多くの有名選手が、野村監督との出会いが野球人生を変えたとおっしゃっているのには驚かされます。もうあの野村監督の毒舌と名言が聞けなくなると思うと残念でなりません。偉大な野村監督が唯一なし得なかった阪神タイガースでの優勝を、野村監督の下で、キャッチャーとして大きく成長した阪神監督2年目の矢野監督が実現してくれることを楽しみに、今年のペナントレースを見守りたいと思います。

野村監督のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



「お別れに代えて：いま一度思春期とは」

スクールカウンセラー 齊藤 誠一

今年度もPTA だよりの1ページをお借りできたことに感謝いたします。
3年生の保護者様には、お子様のご卒業おめでとうございます。ますますのご発展をお祈りいたします。

このたよりに書かせていただくのも、これが最後ですので、今一度、思春期の意味をふりかえってみたいと思います。



●思春期と言えば反抗でしょうか

これまで「思春期の子どもにどのように関わったらいいか」という質問が一番多かったように思います。だれもが子どもとして経験したのに、養育者の立場になると理解できなくなるのが思春期なのかもしれません。思春期の子どもが示す一番厄介なものが反抗でしょうか。中学に入るまでには、子どもたちは多くのことを学び、筋道だって考える思考を発達させます。その結果、大人の発言に矛盾や根拠がないことに気づきます。一昔前ならば、「なぜピアスや茶髪はだめなのか？」という疑問です。これに対して説明できますか？「大人の言うことを聞けないのか」などと言えば子どもの不信感が増すばかりです。

●赤ちゃんの時はかわいかったなあ

赤ちゃんがかわいいのは、生物としてもつ生存能力です。人間の赤ちゃんは他のほ乳類に比べて未成熟な状態で生まれてきます。放置されれば、命の保証はありません。赤ちゃんは愛らしい表情と単なる顔面筋肉運動に過ぎない微笑を大人に見せて、「自分はあなたにとって大事な存在ですよ」とアピールします。大人はそれにうまく騙されて子育てを始めるのです。でも、思春期の子どもたちは、反抗だけでなく、何を聞いても「別に」としか言わなかったり、一緒に歩くのを嫌がったりするなど、とてもかわいいとは思えません。

●いざという時に帰ってこられる場所

こうした思春期の子どもの行動もまた、われわれ大人へのメッセージなのです。いずれも、対等な関係や心理的独立を求めるものであり、大人へ向かう一歩と言えます。ただ、大人はそれまでと異なる子どもの行動を受け入れられず、どうすればいいのかばかりを考えがちです。正解などないかもしれませんが、「なぜピアスがだめか」にきちんと答えてみませんか？一緒に歩けない寂しさに耐えてみませんか？子離れは絶縁ではなく、これまでとは違った距離感で子どもを見守ることです。子どもがいざという時に帰ってこられる心の安全基地と避難所を用意しておくことです。これは、私たち自身も親から用意してもらっていたのではないのでしょうか。子どもも養育者も、自分の人生の主人公として生きていければと思っています。

